



とらいあんぐる



2023 年 6 月

一音会ミュージックスクール発行

「ピアノがいる部屋」

少し前の話です。ピアノを購入しようとしている生徒さんのご家族が、こんな質問をくださいました。

「ピアノは、家の中のどこに置くのが良いのでしょうか？」

その時、井上麻子先生が、私の母、江口寿子の言葉を上手に引用して答えてくれました。

「一番、人が集まる場所に置きましょう」

私も、久しぶりに母の言葉を思い出

しました。

私の母は、確かにそんなふうによく口に出していました。

家族のだんらんの場所。理想はリビングです。

家族の誰もが、気軽にピアノにふれることができる。

家族がおしゃべりする楽しい時間、その風景の中にピアノがある。

ピアノを弾いている家族を、他の家族が近くで見守る。

ピアノのそばで、家族が思い思いにくつろぎ、その延長でピアノに向かう。

でも思うのです。母の思いは、「そうあらなければならない」という“信念”ではありませんでした。

なぜならば、私の家がそんな状態であったことは、一度もなかったからです。

それは、母の“理想”でした。

そして“夢”だったのだと思います。

私が生まれた時、すでに私の家にはピアノがありました。

私は、ピアノが家に来る日、というものを経験したことがありません。

ピアノが家に来る瞬間を想像してみました。

どこに置こうか悩みます。

それだけで、うらやましくてうらやましくて、胸をかきむしりたくなります。苦しくなるほどの切望です。

なんてうらやましい悩みなのでしょう！

さっきもいいましたように、私の家には最初からピアノがありました。

幸せなことに思えるかもしれませんが、子ども時代の私にとっては、ちっとも幸せなことではありませんでした。

そのピアノは、私のものなんかじゃなかったからです。

私の「お友だち」といった気安いものではなく、母の「仕事のパートナー」でした。最初から母のピアノでしたし、母の生徒さんのピアノでもありました。

場所も、家の中で一番かしこまった応接間にありました。いいえ、応接間というよりも、レッスン室だったのです。

私は入って良いけれど、私のネコは入ることを許されていませんでした。

私も、ピアノの練習の時以外は、入ってはいけないような雰囲気でした。

自分の家の中の部屋でありながら、どこかよそのおうちのように。

その応接間でありレッスン室でもある部屋には、2台のグランドピアノがありました。

私が生まれる前から、その状態でし

た。いつから、ピアノがそこにあったのか、私は知りません。

母は、健康だった時代、その部屋でレッスンをしていました。自宅の一室をレッスン室とするのは、個人のピアノ教室ではよくあることです。

当時、家の門に「一音会」と書かれた小さなアクリルのプレートを下げていました。

私が3歳の時、母は発病しました。

長い入院から家に戻った母は、2階の寝室のベッドから、起き上がることができなくなっていました。そして、階段をのぼりおりすることも、できなくなっていました。

母のレッスン室に、人が訪れることはなくなりました。

母の病気の症状が特別に良い日だけ母はその部屋で、私にピアノを教えてくださいました。母は、1階におりること一人ではできなくなっていましたからそんな日はわずかでした。

今、1000人をこえる生徒さんがいる「一音会」ですが、生徒が私一人であった時代のことです。

母のレッスン室は、私以外、誰も入らない部屋になりました。

私がピアノの練習をする時は、一人で階段をおりて、ピアノの部屋に行かなくてははいけません。

その部屋が、小さな子どもが行きたくなるような部屋とは、およそかけ離れているのです。

大きくてまっ黒なピアノが2台ありました。その間にスタンド式のおめかしいランプがありました。



部屋全体に、暗い色のじゅうたんが敷かれていました。血を吸って黒ずんだような、暗いワインカラーでした。

「よりによって、なんでこの色なの！」と思ったものです。

カーテンも色は忘れましたが、暗い色でした。

おばけがぶらさがっているような、いないような・・・。

何度も見返して、おばけがいないことを確認しました。でも次の瞬間にはまた確認したくなります。そんな色でした。

ピアノの他には、濃い茶色の革の応接セットがありました。

大きくて、表面がつややかなソファは、まるで巨大な獣が息をひそめているようでした。

私が背を向けている時に、まるみをおびたその身体が上下して、呼吸しているような錯覚がありました。

壁には、大量のレコードをおさめた

扉つきの棚がありました。

なんとなく、扉が急に開いて、まっ黒な何かが飛び出してきたようでした。

レコードじゃなくて、もっとこわいものが身をかかしているように思えるのです。

よくいえば「アンティーク」ですが、西洋風おばけ屋敷の風情です。

いやだなあ・・・。

こわいなあ・・・。

いつも思っていました。

置いてあるものも部屋全体の雰囲気も、暗くて、とにかくこわいのです。



一人で行くことがおそろしく、よくネコを連れていこうとして、祖母にとがめられました。ネコも行きたくなさそうでした。

部屋がこわいので、ピアノの練習がイヤになっていました。

「あの部屋に行きたくない」と泣きました。

当時、泣く私を前にして、母はさぞかし苦悩していただろうと思います。

一歩も歩けない母は、一緒に部屋に行ってあげるという、健康なお母さんなら何でもないことが、どうしてもできないのです。自分の病をのろったことでしょう。

家族が集まり笑いあう、さんさん日
日の光が差し込む、明るいろびんぐ。

そんなところにピアノがあったら、さぞかし素晴らしいだろう！

母は、そう思っていたらと思います。

母の気持ちを想像すると、その切実

な思いが胸にせまり、私は泣けて泣けて、どうしようもなくなるのです。

でも当時、本当にどうにもならなかったのです。

母はベッドから起き上がることができません。

私の家は、普通の木造の小さな家でした。巨大なグランドピアノを移せるような余分な部屋はありません。

「一音会」は開店休業の状態です。

部屋を改装する余裕もなければ理由もないのです。



しかし、メンタルが丈夫な子どもであった私は、いつしかその部屋を完全に克服していました。

誰も来ないということが、逆に私を自由にしていました。

当時の母は病気が重く、母が私以外の生徒さんのレッスンを再開したのはたしか私が小学校1年生くらいの時だったと思います。

3歳から小学校1年生くらいまでの長い期間、グランドピアノ2台をそなえる立派なレッスン室は、私ひとりだけの練習室だったのです。

当時の私が弾いているのは、「メトードローズ」です。レベルとしては「ピアノの学校①」くらいです。猫に小判もいどころです。

克服のきっかけは、ピアノに自由にさわっているうちに、愛着がわいたことだったように思います。

大きな黒い2台のピアノは、見かけがそっくりでしたが、よくきくと、音がちょっと違っていました。

向かって右の先生用のピアノは、響きに厚みがあり、なんとなく立派な音がしました。左の生徒用のピアノは、明るくて澄んだ音がしました。

タッチも違っていて、右のピアノは鍵盤が重いのに対し、左のピアノは軽くて弾きやすいピアノでした。

私は、2台のピアノに名前をつけました。

右が「お父さんピアノ」で、左が「お母さんピアノ」です。

おもしろいもので、名前をつけてからは、ピアノのことがこわくなくなりました。

名前って大事だなあと思いました。

その勢いで、ランプにもソファにも名前をつけました。

名前をつけると、人のように思えてきます。もう、こわくありません。安心してつきあえます。

未知の獣のように思っていた重厚なソファも、名前をつけてからは、太った優しいおばさんのような感覚です。

身体をあずけて本を読むまでに仲良しになれました。

レコードの棚は、扉が閉まっている

から良くない想像が生まれることに気づき、常に扉を開けておくことにしました。

中身のレコードを一部、外に出してあいたスペースに、モンチッチとそのお友だちを並べてかざりました。モンチッチとは、当時流行したおさるさんのお人形です。

もう、こわくありません。



今思うと母は、ピアノを“家族”にしたかったのだと思います。だから家族が集まる場所に置きたかったのでしょう。

ピアノは、大切な“人”です。
おうちに迎える時は、家族だと思っ

て、お部屋を決めてあげてください。

居心地の良いお部屋に置いてあげてほしいと思います。

教室が所有する「ひびきホール」には2台のピアノがあります。

ベーゼンドルファーのことを、私は内心「王様」と呼んでいます。スタインウェイのことは、「女王様」と呼んでいます。

ものすごく敬意をはらっているのが命名からお分かりいただけるでしょう。

ピアノは“人”です。見た目が似ていても、いろいろな点で違ってきます。

発表会の日、舞台の上には、大きなピアノが待っています。

どんな“人”でしょう？

どんな声の“人”でしょう？

はじめて会うので、ちょっとドキドキしますね。

きっと、優しい“人”です。

会えるのを楽しみにしててください。
（江口 彩子）

◆「ピアノ発表会」が近づいてきました

6月2日（金）より、「発表会のおしらせ」をお配りしています。まだお持ちでない方は、ピアノの担当の先生か、ショパンはうす受付に、ご請求ください。

一音会ホームページの在会生徒さんのページでも、詳細をお知らせしています。

すでに「2023年 ピアノ発表会 出欠希望用紙」をご提出くださった方も、多くいらっしゃると思います。ご協力に、深く感謝しています。「出欠希望用紙」の提出〆切は、6月25日（日）です。

出欠席によらず、すべての方にご提出いただきたいと思います。メールやFAXでもご提出いただけます。

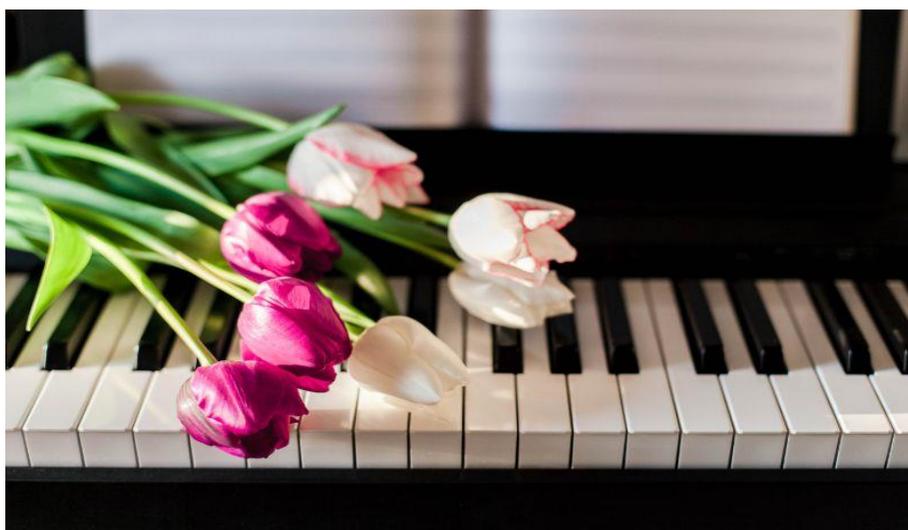
メールアドレス： ichionkai.piano@gmail.com

FAX番号： 03-3957-8864

今年のピアノ発表会は、下記の通りです。

7月30日（日） 板橋文化会館小ホール

8月4日（金）～7日（月） 清瀬けやきホール



「出欠希望用紙」には、参加希望日を書いていただくようになっています。5日間の開催としておりますのは、ご予約と重ならない日を選んでいただきたいためです。

時間帯（部）につきましては、ご希望にそうようにいたしますが、部によって極端に人数が偏ってしまった場合のみ、個別にご相談の電話をおかけすることがあります。どうかご理解ください。

お申し込みいただいた後で、日程的なご都合が変わった場合は、できるだけ早くご連絡ください。



久しぶりに、コロナの影響を感じなくて済むイベントになるでしょう。

もちろん、私どもの側では、感染防止の対策を、引き続き、おこないますが、皆さまにかけるご迷惑は、ぐっと少なくなるはずです。どうぞふるってご参加ください。

この数年、客席を密にしないよう気をつかうあまり、「お友だちの演奏をききましょう」「他人の演奏をきくことこそ勉強です」といったメッセージを封印してきました。

自分と同じくらいの年齢の生徒さんがどんなふう演奏しているのか、あるいは少し年上の生徒さんがどんな曲を演奏するのか、いろいろな演奏をきくことは、勉強になり、刺激にもモチベーションにもなります。普段、ピアノを習っているだけでは、案外、他の生徒さんの演奏をきく機会が得られないものです。

客席に長くどまらないようにする方針に、ご家族の皆さまも、ご協力くださっ

ていたことを感じます。そのせいで、コロナ禍の発表会は、客席がさびしい発表会であったことは否めません。たいへん残念なことでした。

今年は、お友だちの演奏をたくさんきいてください。次に弾いてみたい曲が見つかるかもしれません。

遠慮なく、おじいちゃんやおばあちゃん、ご親戚の方をお招きしてください。たくさんのお客さまにきいてもらいましょう。

先生たちも、がんばって演奏します。ぜひ先生たちの演奏も、きいてください。本来の自由で明るい発表会を、今年は実現できると信じます。



◆ 「リハーサル・トライ」をご活用ください

「ピアノ発表会」当日は、時間の関係で、リハーサルの時間をご用意することができません。また、当日のリハーサルよりも、少し前にリハーサルをおこなった方が「もっとこうの方が良かった」という、リハーサル時の反省を本番に生かしやすいということを、私どもは経験から確信しています。

そのために、「リハーサル・トライ」をおこなっています。「リハーサル・トライ」とは、文字通り、リハーサルです。あわせて、人前で演奏する経験を積む、グランドピアノで演奏してみる、普段のレッスン以外の先生に見てもらう、等といった目

的も持っています。どれも、演奏にみがきをかけるために、大切なことばかりです。

くわしくは、「発表会のお知らせ」にはさみこんであるプリントをごらんください。ピアノ発表会参加予定の生徒さんは、無料でお受けいただくことができます。

イメージとしては、「ミニ発表会」です。ご希望いただいた時間帯の生徒さんの中で、発表していただきます。

各グループには、経験豊かな先生がつきそい、進行にあたります。もし演奏に改善点があった場合には、担当の先生に連絡をします。生徒さんご本人に直接伝えて、混乱させることはありませんので、ご安心ください。

本番のような気持ちで、事前に一度、演奏をしておくと、やはり違うものです。それは、これまでに「リハーサル・トライ」を活用された多くの方がおっしゃることです。

すべての生徒さんが、本番で、持てる力を存分に発揮することができますよう、私どもスタッフも、全力でお手伝いいたします。

「リハーサル・トライ」の場所は、基本的には「ヘンデルはうす」103か204のお部屋を予定しています。

各曜日に、「リハーサル・トライ」の時間帯をもうけますので、ご都合の良い日時をお選びになって、お申し込みください（発表会のお申し込みとは別に、お申し込みいただく必要があります）。

お申し込み〆切は6月25日（日）です。ご不明な点は、本部まで直接、おたずねください（03-5966-7711・担当：伊藤、矢島）。



◆発表会費の引き落としについて

発表会費は、8月28日(月)の9月分お月謝引き落とし時に、お月謝と一緒に、お引き落としさせていただきます。よろしく願いいたします。

◆時節のご挨拶・発表会の御礼など ご遠慮いたします

入会時にも「ガイドブック」にてお知らせしておりますが、一音会では、お中元、お歳暮、発表会のお礼などを、スクール、先生個人に関わらず、一切ご遠慮させていただきます。どうぞご理解のほど、お願いいたします。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：ichionkai.piano@gmail.com

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。